

定時制生徒の自己肯定感・自己有用感を育むための 資格取得指導の研究とその視聴覚教材の作成

岐阜県立岐阜工業高等学校
教諭 高橋 宏幸

1. 研究目的

定時制に入学を希望する生徒の大半は学力不足、学習障がい、学校不適応、特別な配慮を必要とする生徒等、さまざまな問題を抱えている生徒が多い。

そのような課題を抱えている生徒が自信を失い、学習意欲を著しく減退している現状のなかで、教科の指導・支援で自らの自信を取り戻し、自己肯定感や自己有用感を回復させることが困難な状況である。

そこで、自らの今後の人生で有益であり、結果が目に見えて分かる資格取得を推進することによって、自信を取り戻し自己肯定感や自己有用感を育む指導・支援ができると考える。そのための視聴覚教材等を作成して資格取得補習に役立てたいと考え、この研究とした。

2. 研究概要

(1) 研究組織

本研究では資格カレンダーを定時制で作成し、その都度、目的の資格を希望する生徒が集まって、その生徒を対象に教員が補習を行うこととした。取得する資格によって生徒が入れ変わっていく組織となった。

(2) 研究手法と日程計画及び活動内容

研究は以下のスケジュールに基づき実施した。

・研究日程

- 2月：前期技能検定の願書の請求
- 4月：前期技能検定 金属熱処理3級一般熱処理の受検者の募集と願書提出
資格資料（視聴覚教材・予想問題）の作成
乙種第4類危険物試験の補習開始
- 5月：前期技能検定補習開始
- 6月：甲種火薬類保安責任者試験の受検者の募集と願書提出
公害防止管理者水質1種の受検者の募集と願書提出
甲種火薬類保安責任者、公害防止管理者 補習開始
資格教材（視聴覚教材）の作成
- 7月：甲種火薬類保安責任者、技能検定金属熱処理3級、公害防止管理者 補習
教材の作成
- 8月：甲種火薬類保安責任者、技能検定金属熱処理3級、公害防止管理者 補習
資格教材（視聴覚教材）の作成
第2種電気工事士願書提出

前期技能検定試験日

9月：後期技能検定 機械検査2級・3級の受検者の募集

甲種火薬類保安責任者試験日

第2種電気工事士補習開始

資格資料（視聴覚教材・予想問題）の作成

10月：後期技能検定 機械検査の願書提出

第2種電気工事士学科試験日 実技試験のための補習開始

資格資料の作成

11月：後期技能検定 機械検査2級の補習開始

第2種電気工事士実技試験補習

資格資料の作成

エックス線作業主任者の受検者の募集

12月：後期技能検定 機械検査2級の補習

エックス線作業主任者の補習

第2種電気工事士実技試験日

資格資料の作成

2月：後期技能検定試験日 エックス線作業主任者の補習

3月：エックス線作業主任者試験日

・資格受検者数

乙種危険物第4類	3名
前期技能検定金属熱処理3級	3名
甲種火薬類保安責任者	1名
公害防止管理者 水質3種	1名
第2種電気工事士	1名
後期技能検定機械検査2級	2名
エックス線作業主任者	0名 受検者は無いが、補習希望者2名

・活動方法

主として、学科試験の内容については、教室に集合して教室内で教員側が作成した視聴覚教材とそのテキストを用いて学習を行った。

また、実技試験の内容については、定時制実習棟において、実技試験会場と同じ状態をつくり、実技試験に対応した学習を行った。



実技補習の様子①



実技補習の様子②



表彰の様子



3. 研究成果の分析

研究成果としては、補習を実施した資格試験の合格者について述べる。

乙種危険物第4類	合格者2名	3名受検中
前期技能検定金属熱処理3級	合格者3名	3名受検中
甲種火薬類保安責任者	合格者0名	1名受検中
公害防止管理者 水質3種	合格者0名	1名受検中
第2種電気工事士	合格者1名	1名受検中
後期技能検定機械検査2級	合格者1名	2名受検中
エックス線作業主任者	補習希望のみ	

これらの資格取得者のうち、3名が全国工業校長協会主催のジュニアマイスターの表彰を受けた。内訳はジュニアマイスターゴールド1名、シルバー2名である。

ジュニアマイスター表彰の様子



4. 今後の課題と展望

定時制課程の測定器は限られた予算のなかでの購入であるため、マイクロメータや歯厚マイクロメータ、ハイドゲージ、ブロックゲージなどなかなか購入できないものであった。しかし、本研究の助成金によってそれら全てを購入することができた。そして、それらを使用して技能検定の補習を行えたことは大変意義深い。

また、様々な参考文献を購入することができ、今回の研究では実施できなかった技能検定の機械保全2級と3級の実施に向けて大きな前進をすることができた。

まだまだ、全てのものがそろった訳ではないが、この研究を行った結果、とても大きな成果が生まれたことは紛れもない事実である。

資格取得を通じて定時制生徒の自己肯定感や自己有用感を向上させることに有用であったことは試験結果を見れば明らかである。今後は資格取得を希望する生徒を増やすことや希望者数増加に伴って、試験用具の整備と台数を増やして行くことが課題である。

しかし、定時制生徒の中には資格取得を強く希望しているにも関わらず、金銭的事情から資格取得を断念する生徒も今回の研究を通じて浮きぼりになった。その課題を今後どのように克服していくべきかを考えていくことになる。

また、この研究を今年だけに留めるのではなく、資格取得の補習を流れとしてとらえ、継続していくことが本当の研究の成功といえる。

謝辞

本研究を遂行するにあたり、公益財団法人天野工業技術研究所理事長川幡長勝様をはじめ天野工業研究所、また岐阜工業高等学校校長堀秀樹校長先生から多大なご支援とご助言をいただきました。深く感謝申し上げます。